

Aグループ 「子育てしやすいまちづくり」に向けて長所や短所などの整理

	長所	短所	対応案
立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の中心に位置</li> <li>・待機児童がほぼゼロ、保育園が近く、保育料が安い</li> <li>・オムツの持ち帰りがなく、休日保育もある保育サービスがありがたい</li> <li>・子どもが少ないため、ありがたがられる</li> <li>・行政との距離が近く、すぐに相談できる</li> <li>・学校の規模が小さく、一人ひとりが活躍できる</li> <li>・生活費が安く済む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに行くにもとても遠く、車社会のためガソリン代や環境負荷が重い</li> <li>・飛騨市との分断</li> <li>・私立小学校や塾など教育の選択肢が乏しい</li> <li>・教育のレベルが低い</li> <li>・小学校までは良いが、中学校以上が良くない、都会へ出ていく</li> <li>・学校へ行かないと子どもの居場所がない</li> <li>・まちなかに居場所がない</li> </ul>	⇒広域連携が大事
意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化のある観光地で、祭への参加、異文化との交流、伝統文化を通じた子育てができる</li> <li>・地域のコミュニティが良好で、人々がやさしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観が画一的で古く、多様性（他者への寛容さ）が乏しい</li> <li>・「支援学級」→「エジソン学級」にイメージを変える（スピード感を持って変える）</li> <li>・多様な職業の選択肢があるなか、大人の考え方が保守的</li> <li>・地域との関係が近すぎる</li> <li>・性別で役割が固定化しており、子どもを持つことで女性の負担が非常に大きい（人数が多くなるほど）</li> <li>・活躍する母親に対する支援が少ない</li> <li>・選択肢が条件付きが多い（～しなければ→～してもOK）</li> </ul>	⇒特性の違いを活かした「地域間留学」（中心部の子と周辺部の子の交流など）
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が近く豊かで、水や野菜などが美味しい</li> <li>・犯罪が少ない</li> <li>・子ども達の仲が良く、お金でないつながりがある</li> <li>・木製の机椅子、木がふんだんに使われた校舎が良い</li> <li>・四季がはっきりしていて、雪遊びやスキーもできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬はとても寒い</li> <li>・自然頼みで、幼児やハンデキャップのある子どもが安心安全に遊べる公園がない</li> <li>・のびのびと遊べる公園や室内施設がない</li> </ul>	
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス拡充を進め、発信もしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の量が少なく届いていない、政策の発信力が乏しい</li> <li>・サービスは充実してきたが、市民が知らない（ポテンシャルがある）</li> <li>・ICT支援が遅い、3年遅い、都市部に依存している</li> <li>・仕組みを再構築するタイミングである</li> </ul>	⇒SNS（インフルエンサー）を活用したイベントや手続きの発信、民間メディアとの協業

Bグループ 「子育てしやすいまちづくり」に向けた課題など

主にソフト面

分野 年代	仕事と子育て	サポート	コミュニティ
未就学児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預け先がなく就労が難しい</li> <li>・仕事、家事、育児を両立できない</li> <li>・給与など待遇の悪さから保育士のなり手が不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを育てることへの不安が大きい</li> <li>・県外からの転入者など「孤独」な子育てとなっている</li> <li>・孤独感強いが、相談できる人が少ない、分からない</li> <li>・母親へのソフト面でのサポートが乏しい</li> </ul> <p>⇒「かんかこかん」のような場所が大切</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティが育たない（中心人物が重要）</li> <li>・市外から嫁いできた母は、第二の母的な存在を求めているが、どこにいるのか</li> <li>・子育て分野に限らず、地域のコミュニティが希薄化している</li> </ul>
小中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土日勤務の場合、預け先がない</li> <li>・父方の祖父母と同居していても、子どもを預けるのは気が引ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校について 行きたい学校を選べない、授業がつまらない、様々なトラブルが発生する、生き物を飼えなくなった</li> <li>・不登校の子どもへの支援について 親や教員、地域の「学校は行くもの」という意識、教員や福祉スタッフの負担が大きく支援から漏れる孤立家庭がある、子どもの選択肢が少ない</li> <li>・子どもの権利について 子どもの最善の利益を考えて安心して育ち、遊び、休む権利を保障できていない、教育機会確保法の周知不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家から出られない子の行き場がない</li> <li>・シングルマザーの子育ては大変</li> <li>・友人との様々な交流が大切</li> <li>・学校以外で、高山ならではの経験ができているのか</li> </ul>
高校、 大学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学費をはじめ、経済的な負担が非常に大きい</li> <li>・市内にホテルが乱立するなかで、高校生の年代が重要な労働力となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望した進路でも不登校となる子どもが増えている</li> <li>・全日制高校に行けなかった子どもたちの将来は大丈夫か</li> <li>・高校を中退した子どもの働く場がないのでは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山ならではの楽しい生活を送れているのか</li> <li>・子どもも親も、高山を離れることばかりを考えている</li> <li>・飛騨牛の放牧をしたいなど若者の夢を実現するには</li> </ul>

ハード面など

<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に遊べる場所が少ない、公園の魅力が乏しい、児童センターが古い</li> <li>・温水プールなど魅力ある施設を求めて、他の地域に遊びに行く</li> <li>・子どもの希望を叶えるためには、市外に出さざるを得ない</li> </ul>
---

⇒ 1日目の小結論 子どもや子育て中の親子の「居場所づくり」が一番大事、そこから様々な課題解決策へと波及していくのではないかと